

戦争法案の強行採決に 抗議する集会とデモ行進を おこないました

「戦争させない・9条壊すな！ 総がかり行動根室実行委員会」は、7月16日に衆議院で行われた安全保障法制の強行採決に抗議する緊急の集会とデモ行進を行い、市民ら約50名が参加しました。

ときわ台公園でおこなわれた集会では参加団体や参加者がそれぞれ戦争法案の強行採決に対する怒りのスピーチを行い、その後、市総合文化会館までの道のりを「戦争させない！」「憲法護ろう！」などと太鼓のリズムに合わせてコールしながら、プラカードやのぼり、楽器をそれぞれ手にして鳴らしながら、デモ行進しました。



細川実行委員長（主催あいさつ）

いま私たちにできることはたった一つ。国民一人一人がこの法案に反対し、平和を希求する人の輪を広げることだ。この法案を押し通そうとする国会議員を国会から追い出すまで続けなくてはならない。未来の平和のために一生懸命に人の輪を広げ、反対の輪を広げていきましょう。

波多氏（社民党からのあいさつ）

法案の強行採決は日本国憲法の持つ不戦の誓いと、立憲主義を根底から覆すものだ。法案に反対する国民の声を押しつぶす異常な国会、数の暴挙に他ならない。国民が今求めているのは、違憲・欠陥・矛盾だらけの法案の撤回と廃案だ。

橋本氏（日本共産党からのあいさつ）

安倍政権の支持率低下は、全国各地で行われているこうした運動の表れと思う。法案の成立阻止に向けて全力でたたかう。

根労連（幹事団体のスピーチ）

国会は連日の草の根の反対抗議に包囲されている。全国でも連鎖的な集会やデモが起こり、若者や母親などの自発的な行動と鮮烈な訴えが人々の心を動かしている。行動の輪をさらに広げ、圧倒的な世論で法案をストップすることが求められている。問われているのはこの国のあり方、日本社会の未来だ。

自治労根室市職労（幹事団体のスピーチ）

かつての戦争は私たちに大きな傷と教訓を与えた。「戦争してはならない」というわかりやすい言葉が政府に響いていないのが残念だ。戦争しない国づくりは戦争を経験した先人たちの魂の叫びだったはずだ。私たちが受け継いだ憲法は、子ども達や未来に受け継いでいかなければならない。

吉岡氏（参加者からのスピーチ）

70年前、父は原爆に遭い、母は鳴海町にいて周りの方が空襲で大勢亡くなった。

根室は千島・北千島への武器弾薬・兵員を送る兵站の中継地であり、また本土防衛に備えた前線基地でもあった。そのために米軍の空襲に遭った。戦争には前線も後方支援もない。空襲で約400名の何の罪もない一般市民が亡くなった。そしてソ連に千島を不法占拠され、領土ばかりか海も占拠された。戦後70年、根室は苦難の道を進んできた。今のサケマス問題なども含めてすべて戦争の負の遺産であり、戦後処理がしっかりしていない結果といえる。

戦争は絶対に起こしてはならない。何の罪もない一般市民が被害をこうむる。国民・主権を守ることは国として大事な事。しかし国民のための政治であり、安倍晋三のための政治ではない。

今こそ声を大きくして戦争法案反対、平和を守る、基本的人権の尊重...、こういう世論を大きく盛り上げよう。



根室市議会 7月緊急議会

7月21日、根室市議会は、7月緊急議会を開催しました。

ふるさと納税推進事業 20,570千円

根室市では、市外在住者からふるさと納税を受けた時の返礼品を6月から拡充しました。あわせて「ふるさとチョイス」というポータルサイトと連携し、クレジット決済の導入を実施するなど、自主財源の確保と地場産品のPRを強化する目的で、さまざまな取り組みをすすめています。

結果、6月の単月で640件と申し込みが急増。ふるさと納税の返礼品として当初予算で見込んでいた2,850千円をオーバーしました。今後どの程度の需要が見込めるか予測が出来ないため、当面9月分までの予算として20,570千円が増額補正されました。

根室市議会ロシア 200海里水域内に関する水産経済対策特別委員会の設置

「ロシア 200海里水域内に関する漁業及び地域経済への影響等を含む水産に係る諸問題を総合的に調査し、適切な対策を講ずることを目的とする」特別委員会が設置されました。所属する委員は次の通りです（敬称略。は委員長、は副委員長）。

波多 雄志	・	滑川 義幸
鈴木 一彦	・	神 忠志
足立 計昌	・	北川 實
田塚不二男	・	工藤 勝代
久保田 陽		

あわせて北方領土対策特別委員会についても新しく委員が専任されました（敬称略。は委員長、は副委員長）

永洞 均	・	橋本 竜一
本田 俊治	・	五十嵐 寛
佐藤 敏三	・	小沼 ゆみ
遠藤 輝宣	・	千葉 智人
壺田 重夫		